

ごみの分け方・出し方

〜ごみの減量に普段の生活から
取り組んでみませんか〜

ごみの分別、大変ですよ。市では、県内で最も多い24品目の分別をお願いしています。「面倒だから、燃やせるごみの袋に入れてしまえばいいよ。」と思う人もいるかもしれません。

でも、ちょっと待ってください。令和元年度、伊豆の国市では、1人1日あたり約980gのごみが出されました。このうち、約7割が燃やせるごみです。燃やせるごみの焼却には、大変な費用がかかります。

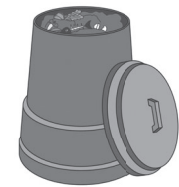
燃やせるごみは、1人1人のちよつとした工夫で減らすことができます。

例えば、食べ物などの生ごみは、生ごみ処理機を使うことによって、堆肥として使うことができます。

皆さんも、ごみの減量化に取り組んでみませんか？1人1人のちよつとした工夫の積み重ねが、

ごみの減量化や、経費削減に繋がります。

※伊豆の国市では、家庭で発生する生ごみの減量化と再資源化を促進し、ごみ問題への意識向上のため、機械式生ごみ処理機やコンポストを購入する世帯に対し、補助金を交付しています。詳しくは、お問合せください。



▲コンポスト

問 廃棄物対策課
☎ 055(949)6805

認可外保育施設などを利用しているお子さんがいる人へ 幼児教育・保育の無償化について

問 幼児教育課 ☎ 055-948-1447

昨年10月から始まった幼児教育・保育の無償化により、幼稚園等の利用料が無償となりました。利用する施設によっては、事前に「保育の必要性の認定」を受ける必要があります。詳しくは利用している施設または幼児教育課に問い合わせください。

対象者（4月1日時点の年齢）／

- ・3～5歳児クラスの保育を必要とする子ども
- ・0～2歳児クラスの保育を必要とする住民税非課税世帯の子ども

提出書類／

- ・施設等利用給付認定申請書
- ・保育を必要とする事由を確認できる書類（就労証明書や申立書など）

提出先／

- ・幼児教育課

その他／

- ・無償化の対象となる利用料には月額上限があります
- ・対象者の要件に該当する場合は、随時認定の申請ができます

保育を必要とする事由について（保護者全員が該当していることが必要です）

1	就労	居宅外で就労されている人（予定を含む） （月に60時間以上労働することを常態としていること） 自営業（自宅外自営、親族経営等の自営を含む）の場合 （月に60時間以上、子どもと離れて日常の家事以外の労働をすることを常態としていること）
2	妊娠・出産	保護者が妊娠又は出産（出産予定月の2カ月前～出産後の2カ月以内）
3	就学	就学中であること（職業訓練を含む）
4	疾病・障害	保護者が病気、負傷、心身に障害を有しており、保育が困難であること。
5	介護・看護	同居している親族で、長期にわたる病人や心身に障害のある人を、常時介護・看護しており、保育が困難であること
6	災害復旧	震災、風水害、火災その他の災害の復旧にあたっていること
7	求職	求職活動を継続的に行っていること（3カ月以内）

葦山反射炉保存修理工事について

問 文化財課 ☎ 055-948-1428

葦山反射炉は、昭和60年～63年にかけて実施された大規模な保存修理工事後、目立った工事は行っていません。煙突内部や炉体内部は風雨の影響を受けづらいことから、目立った破損は確認出来ませんが、外部の煉瓦、石材、鋼材の塗装は目視で確認できるほど、劣化が進んでいます。

これらの現状を踏まえ、文化財を壊さないよう現在の形を可能な限り残したうえで、劣化が激しいもののみを修理する、保存修理工事を実施します。

期間／令和2年10月1日（木）～令和3年12月20日（月）（予定）

対象／葦山反射炉本体

見学／10月1日（木）から21日（水）までを臨時休館とし、仮設工事（足場の設置等）を実施します。反射炉本体は10月22日（木）から令和3年10月31日（日）まで工事用のシートで覆います（外観を望むことが出来なくなります）。ただし、見学者用足場を設置するため、より反射炉を近くでご覧いただくことが可能です。

その他／新型コロナウイルスの影響等により工期などが変更となる可能性があります。詳細は市HPをご覧ください。



運動不足を解消しよう！ 自宅でできる運動を紹介します！

問 スポーツ振興課 ☎ 055-948-1460

新型コロナウイルス感染症による外出自粛により、運動不足を解消するため、自宅でできる簡単な運動を紹介します。

椅子がある場所ならどこでもできる、簡単な運動なので、皆さんもぜひ実践してみてください！

首・肩のストレッチ



1. 椅子に浅く座り、肩幅より広く足を広げ、つま先を外側に向け、腕を体の前でクロスし、椅子の座面をつかむ



2. 椅子の座面をつかんだまま、引き上げるようなイメージで背筋を伸ばす。クロスする腕を組み換え同様に行う。

効果：首・肩凝りの原因となる筋肉の血流を促進し、疲れを解消
実施回数：5回繰り返し